

「シジュウカラの営巣 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

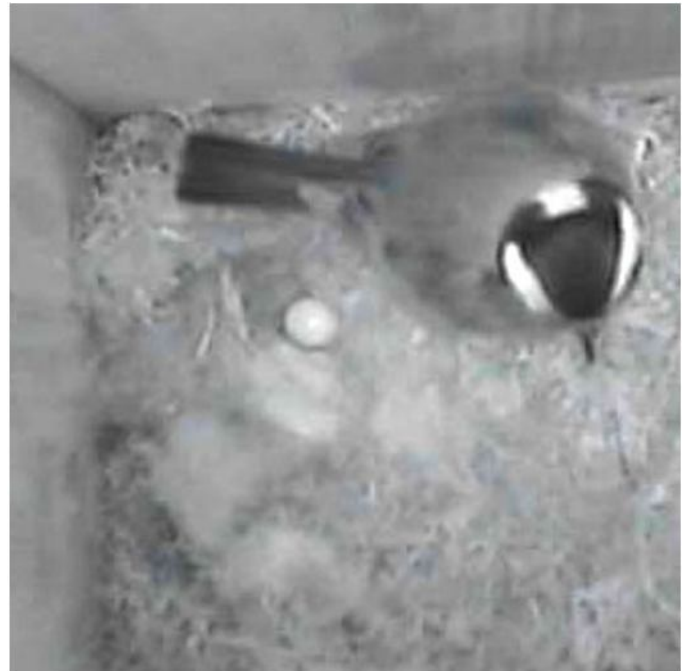
綿毛を使った産座ができあがると、そのすわり心地や広さを調整しに、昼間でも何度も巣箱を訪れるようになる。



通常産座は、巣箱の中央につくることが多いのだが、今回は巣箱の左上隅を選んだようだ。孵化した雛は、巣立ち寸前まで産座から出ることはない。こんな隅っこで大丈夫だろうか? 画像は4月25日の午前中。



4月28日の晩から、親鳥(メス)は巣箱の中で一晩中過ごすようになった。背中の綿毛をフワフワにして、そこに顔を突っ込んで眠る。1時間に一回ぐらい、「寝返り」を打つ。およそ午後7時から朝5時まで、10時間ぐらい睡眠をとっている。



4月29日の朝、最初の卵を産んだ。しかし、日中抱卵することは絶対はない。最後の卵を産むまでは、できるだけ抱卵せず、孵化時期になるべく差がつかないようにしているのだ。



産卵は毎朝続き、一日に1個ずつ産んでゆく。ニワトリと同じだ。5月2日の朝、卵は5個になっていた。5個で終わることもあるし、10個産むこともある。翌朝に卵を産む予定がない場合は、夜も巣箱に戻らないこともある。このあとが楽しみだ。